

2019 年 11 月幹事会 セミナー幹事資料

【議題 6】2020 年度 第 24 回夏セミナーの企画について

セミナーの基本構成

ラウンドテーブルディスカッション (3 テーマ) + 特別講演 + 会長講演

ラウンドテーブルディスカッション (RTD) のテーマ案

1) トランスポーター

- ・ 提案理由：早期評価法や臨床 DDI の実例など、製薬企業の関心は常に高い。
- ・ 組織委員 (案)：東京大学 前田和哉先生 他
- ・ 講演者候補：武田薬品 中俣屋匡紀先生、大日本住友製薬 富田純子先生、日本ベーリンガーインゲルハイム 石黒直樹先生 他

2) ニューモダリティ (細胞医療)

- ・ 提案理由：核酸、抗体はこれまでセミナーで取り上げてきたため、細胞医療に特化した薬物動態研究者の貢献について議論したい。
- ・ 組織委員 (案)：第一三共 渡邊伸明先生 他
- ・ 講演者候補：武田薬品 山本俊輔先生 他

3) バイオアナリシス

- ・ 提案理由：ICH M10 が Step 3 まで進んでおり、現在ホットなトピックとなっている。フローサイトメトリー、PCR 等の新規測定法の最新情報に対して製薬企業の関心が高い。
- ・ 組織委員 (案)：国衛研 石井明子先生、斎藤嘉朗先生、アステラス製薬 大津善明先生 他
- ・ 講演者候補：JBF や各 CRO の M10 関連や新規測定法に長けた演者

(バックアップテーマ) ターゲティング型 DDS

RTD については幹事会にて承認後、各テーマについて組織委員会を設置し、内容及び講演者についての検討を開始する。次回 1 月幹事会にてプログラム案を提案予定。

特別講演

未定 (細胞医療の臨床関連で検討中)

会長講演

未定

その他

異動のため、セミナー幹事を吉永から新野啓介 (1 月幹事会より参加) へ変更いたします。

[参考] 過去 5 年間の RTD テーマ及び組織委員

	セッション 1	セッション 2	セッション 3
2015 年	イメージング技術を駆使した創薬動態研究の実践 平林英樹先生 内藤真策先生	M&S は創薬のブースターになるか？ 前田和哉先生 倉橋良一先生	薬剤性肝障害を回避するために企業研究者ができること 神野敬将先生 久米俊行先生
2016 年	創薬における薬物相互作用との上手な付き合い方 前田和哉先生 内藤真策先生	バイオマーカー研究の実際と測定法バリデーション 香取典子先生 栺原隆先生	新規医薬品の初期製剤開発とその評価 山下伸二先生 久米俊行先生
2017 年	PK/PD-QSP モデルを活用した医薬品の探索・開発の考え方 樋坂章博先生 奥平典子先生	個別化医療における薬物動態研究の役割 楠原洋之先生 内藤真策先生	抗体医薬品開発における薬物動態研究の貢献 寺尾公男先生 栺原隆先生
2018 年	First in Human study における動態及び毒性からのアプローチ 澁澤幸一先生 栺原隆先生	薬物相互作用評価のフロンティアライン～定石をこえる次の一手とは？～ 前田和哉先生 岩坪隆史先生	非経口投与剤の DDS 技術と薬物動態評価 尾上誠良先生 森脇俊哉先生
2019 年	薬物相互作用評価における内因性バイオマーカー研究の最前線 楠原洋之先生 栺原隆先生	実践で役に立つヒト薬物動態予測法の基礎と最前線 宮内正二先生 森脇俊哉先生	創薬におけるヒト代謝物の評価：現状と課題 小林カオル先生 奥平典子先生